

続報

足利市制100周年記念特別展

戦国武将 足利長尾の武と美

—その命脈は永遠に—

市立美術館・☎43 3131

脇指銘『國廣』

堀川国広作 江戸時代 坂城町鉄の展示館蔵

2014年11月に亡くなった俳優の故高倉 健さんが所蔵していた刀です。

生前、高倉さんは「職人たちの精神性が籠められた美術品」(『高倉健、その愛。』小田貴月著 文芸春秋刊 2019年より)として刀を鑑賞したそうです。本展では国広が足利を離れ、江戸時代(慶長年間)に京都で作った刀として紹介します。

欠伸布袋・紅白梅図

雪村周継作 室町時代 茨城県立歴史館蔵

戦国時代に生きた雪村は東日本の各地を歴訪し数多くの傑作を残しました。そして、尾形光琳、狩野芳崖ら後世の画家たちに影響を与えた画家として知られています。また、その足跡から足利学校との関係が指摘されています。



▲三幅のうち『欠伸布袋』

会期 2月11日(金)～3月27日(日)／午前10時～午後6時 ※入館は午後5時30分まで。

料金 高校生以上 1,000円

※中学生以下、障がい者手帳をご提示の方は無料。特別料金のため、いきいきパスポート、家庭の日割引など各種割引の適用はありません。

観覧は事前予約制です

▶予約方法=専用サイトで受付

※予約に関する詳細は、市ホームページをご覧ください。

市民限定観覧チケット

今月号に掲載の同チケットに代表者の氏名、観覧人数、住所、連絡先を書いて受付で渡すと1家族4人まで無料※チケット利用は1回まで。

市民限定特別入館枠『市民の日』(休館日に合わせて特別開放)

予約不要ですが、上記観覧チケットが必要です。

▶2月=14日(月)・21日(月)・24日(木)・28日(月)

▶3月=7日(月)・14日(月)・22日(火)

※入館希望多数の場合、整理券を配布する可能性あり。

特別展や予約受付、関連行事に関する詳細・最新情報は、市ホームページに随時掲載します。



市民の日=予約不要 市民の日以外=要予約

※会場などにお越しの際は、新型コロナウイルス感染症予防対策にご協力ください。また、状況により延期や中止となる可能性があります。

お知らせ

ご協力ください 新市民会館
整備に関するアンケート

公共施設整備課・☎②②②67

同館の整備の基本方針となる基本構想策定の基礎資料とするため、市民の皆さんが思う、市民会館の将来像などをお聴きします。
対象 中学3年生以上の無作為抽出による市民3000人
調査期間 2月1日(火)～25日(金)
調査方法 郵送

※アンケート用紙が届いた方は回答をご記入のうえ、同封の返信用封筒で業務委託先へ返送してください。

業務委託先 株式会社シアターワークショップ

119番通報不通のお知らせ

通信指令課・☎⑦9222

2月18日(金)

午前1時50分から約3分間

この間の通報は携帯電話から

☎090・3311・1881

におかけください

温故知新7

企業の立地・集積への
取り組みについて

早川 尚秀

(一財)日本立地センターの調査によると、全国の80%の自治体企業が誘致に積極的に取り組んでいます。自治体としては、地域の雇用・税収・定住人口の増加や消費の拡大等、地域活性化につながり、更には地域企業への受発注機会の拡大、地場産品・資源の利活用も期待されます。

経済産業省の『工場立地件数の推移』によると、国内の企業立地件数は平成14年を底に増加に転じ、新型コロナウイルスの影響もあり国内回帰の動きが見えるそうです。

さらには、東京にいる価値が薄くなり、都心を離れて地方への移転を考える企業が増えてきています。地方移転もしくは地方拠点を増やすことに関するアンケートでは、『検討している』『今後検討していきたい』を合わせると前向き

な回答が74%に上っています。また、企業側が進出先を選ぶポイント(立地地点選定理由)としては、工業団地、自治体の助成制度、人材・労働力の確保等が挙げられています。

働く人の間でも、脱東京やコロナ移住と言われるように、特に若い世代の意識が変わり、地方移住を考える人が増加しています。そして国土交通省の意識調査によると、住む地域に重視する点として、医療や教育分野の他に、日用品の買い物環境、交通インフラの充実度、地域固有の魅力が挙げられています。

このように、企業と労働者から『地方』は注目されており、他の地方自治体の動きも活発になっています。

本市では、栃木県企業局による『あがた駅南産業団地』造成が令和元年10月に完了し、すぐに完成しました。その後、県駅の北側に『(仮称)あがた駅北産業団地』を本市単独で造成することを決めましたが、完成は令和8年10月、つまりは8年間も提

供できる産業団地がないという空白期間が生じており、この間、企業立地のチャンス逃している状況にあります。

今後は空

白期間が生じないよう産業用地の確保を進めなければなりません。そこで、早急に次の産業団地造成に着手するために、市役所内にチームを組織し検討を開始しています。

企業誘致事業は容易なことではありませんが、上記のような企業・人が求める条件を見ると、本市は選ばれる可能性を十分に備えています。

産業集積はまちの将来活力を大きく左右する重要な分野です。『地方にこそチャンスあり』の信念を持って、本市の価値を高め、発信していきます。



あがた駅南産業団地